

## 48 江戸時代の経済について

～今の時代を取り入れて考える～

### 1. 研究背景と研究目的・意義

#### 1.1 研究背景

旧里帰農令とは松平定信の寛政の改革で出された改革のことで江戸に出稼ぎにきた農民に資金を与えて農村に帰ることを奨励した政策のこと。農村に帰ってもメリットがなかったことからこの政策に従う百姓は多くなかったため政策としては失敗といえる。

#### 1.2 リサーチクエスションと先行研究・事例

旧里帰農令政策としては失敗したので「旧里帰農令はどのような政策なら成功したのだろうか？」というリサーチクエスションを立てた。

旧里帰農令に似た政策で人返しの法があって、旧里帰農令に強制力を持たせた政策のことで、天保の改革で出された。強制力を持たせたが実際に従う人は少なく、有効な政策とは言えなかった。

#### 1.3 研究の目的・意義

江戸時代経済の経済について様々視点から考えることで日本史についての知識を深め、日本史探求の授業や共通テストなどに生かしていく。

### 2. 研究方法「旧里帰農令はどんな政策なら成功したのだろうか？」

#### 2.1 研究目的とリサーチクエスション・仮説との関係

旧里帰農令が具体的にどのような政策なら成功したのかを現代の視点から考察する。

研究方法としては、実験などは不可能なため、様々な情報が掲載されている、インターネットや日本史の教科書、日本史に関する本などを使用して調査する

#### 2.2 研究と分析方法

まず旧里帰農令が出された時代背景を詳しく調べ、その時代にほかのどのような政策が行われていたか、どのような身分の人で構成されていたかなどをしっかりと把握する。ほかの時代の似たような政策を調べて、どのような対応していたのかなどを参考にして研究している時代にも適応させうることができないかを考える

## 2.3 結果

研究の結果として三つの柱を立てた。一つ目は気候変動への対策についてで、遺伝子編集技術で寒地向けの作物を開発したり、ヒエ、アワ、ソバなどの耐寒作物を改良したり寒冷期農業技術の指導などを充実させることにより、冷害などが起こってもそれに耐えることのできる農作物を各地で作ることができるようにする。二つ目は流通ネットワークの強化についてで、物流の最適化や冷凍保存技術を発達させる。また幕府直轄の公的な食糧備蓄庫を設けたり、各地の米の価格を飛脚網と城代家老経由で定期報告したりすることで農作物を正確に管理する。三つ目は収穫量と貯蔵技術の改革で土壌分析や化学肥料などの技術を利用すること。また金肥の利用を拡大したり玄米での長期保存技術の改良をしたりすることが有効な政策だと考えた。

## 2.4 考察

2.3 で示した結果をより具体的にすることが必要だと思った。どうすれば物流を最適化できるかなど実際の政策にすると考えたときにもっと細かいところを考える必要があると思った。

# 4 結論と今後の展望

## 4.1 結論

私たちが立てたりサーチクエスチョンである「旧里帰農令はどのような政策なら成功したのだろうか」の結果としては飢饉で農作物が取れなくなってしまうのには冷害などの気候の影響や、荒れた農地で農業をすることが難しくなっていること、地方へ十分な食糧が共有されていないことなどがあげられるので結論として、気候変動への対策、流通ネットワークの強化、収穫量と貯蔵技術の改革という大きく三つに分けて考えた。

## 4.2 今後の展望

今回考えた結果をより具体的にして江戸時代でも施行することができる範囲の政策を様々な観点から考え、研究を深めていく必要があると思った。

# 5 引用文献・参考文献

<https://www.bing.com/ck/a?!&&p=fb900e601d74614882c7fdce3021a1f26e20fd88bb16f57719014fd587342c8aJmLtdHM9MTc00DkwODgwMA&ptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=36166460-4dec-6e17-2275-71844c6f6fd4&psq=%e6%97%a7%e9%87%8c%e5%b8%b0%e8%be%b2%e4%bb%a4%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6&u=a1aHR0cHM6Ly9uaWhvbNpLWppdGVuLmNvbS9reXV1cmIraW5vdXJlaS1oaXRva2Flc2hpLXRpZ2FpLw&ntb=1>